

社会保障研究所日誌（平成 4.4～平成 5.3）

平成 4. 4.14 定例役員会（第280回）

4.16 政策研究会（第1回）

報告内容と報告者「厚生白書平成3年版について」厚生省大臣官房政策課調査室長 堀之内 敬

4.21 研究課題Ⅲ 社会保障の新しい財源政策（第1回）

報告内容と報告者「老人ケアの社会的コストに関する研究」社会保険庁総務部総務課課長補佐 宇野 裕

4.23 研究課題Ⅱ 高齢化社会における介護ネットワークの構築（第1回）

討論：研究のすすめ方について

4.24 研究課題Ⅰ 現代家族と社会保障——出生と保育に関する理論・実証分析——（第1回）

報告内容と報告者「婚姻と出生をめぐる現状と諸問題」厚生省人口問題研究所国際人口研究室長 小島 宏

5.12 政策研究会（第2回）

報告内容と報告者「今後の労働需給と社会保障について」日本経済研究センター主任研究員 八代 尚宏

5.19 定例役員会（第281回）

5.21 研究課題Ⅱ 高齢化社会における介護ネットワークの構築（第2回）

報告内容と報告者「介護サービスの現状と政策課題」厚生省大臣官房老人保健福祉部老人福祉計画課老人福祉専門官 村川浩一

5.26 研究課題Ⅲ 社会保障の新しい財源政策（第2回）

報告内容と報告者「保育料にみる利用者負担と財源政策」社会保障研究所研究員 勝又幸子

5.29 研究課題Ⅰ 現代家族と社会保障——出生と保育に関する理論・実証分析——（第2回）

報告内容と報告者「仕事と育児の調和にむけての行政の対応」労働省婦人局婦人福祉課課長補佐 定塚由美子、「低出生率に対する諸施策」厚生省児童家庭局企画課専門官 柏女霊峰

6. 9 定例役員会（第282回）

6.23 研究課題Ⅱ 高齢化社会における介護ネットワークの構築（第3回）

報告内容と報告者「老人デイケアからみた地域ケアシステム——実態調査結果から——」国立精神・神経センター精神保健研究所老化研究室長 斉藤和子

同 研究課題Ⅲ 社会保障の新しい財源政策（第3回）

報告内容と報告者「リバース・モーゲージについて」慶応義塾大学教授 前川 寛

6.25 政策研究会（第3回）

報告内容と報告者「診療報酬点数表の改定について」厚生省保険局保健医療企画調査室長 渡辺芳樹

6.26 研究課題Ⅰ 現代家族と社会保障——出生と保育に関する理論・実証分析——（第3回）

報告内容と報告者「人類生態学からみた出生率」東京大学医学部人類生態学教室教授 大塚柳太郎

6.30 社会保障費調査研究委員会（第1回）

「平成4年度社会保障費調査・研究の課題とその方法について——討論を中心として——」

7.14 研究課題Ⅱ 高齢化社会における介護ネットワークの構築（第4回）

報告内容と報告者「わが国とアメリカの民間在宅介護の現状」東京海上メディカルサービス(株)調査役 矢野 聡

同 定例合同役員会（第283回）

7.17 研究課題Ⅰ 現代家族と社会保障——出生と保育に関する理論・実証分析——（第4回）

報告内容と報告者「少子現象の社会・文化的構図」調布パルコ 田中雅之、「フェミニズム論から見た結婚・出産・育児の意味」お茶の水女子大学助教授 江原由美子

7.21 研究課題Ⅲ 社会保障の新しい財源政策（第4回）

報告内容と報告者「社会福祉制度の一般的財源政策」大阪府立大学教授 大野吉輝

7.28 社会保障費調査研究委員会（第2回）

「平成4年度 研究の進め方と分担について」報告内容と報告者「社会保障の産業連関データをめぐる」社会保障研究所所長 宮澤健一

9.1～4 第28回社会保障研究所基礎講座（こまばエ

ミナース)

講座「厚生行政の課題」厚生省大臣官房政策課長 谷口正作,「高齢化産業社会の社会保障」社会保障研究所所長 宮澤健一,「医療保険制度の課題」社会保障研究所主任研究員 高木安雄,「年金改革の課題と方向」社会保障研究所研究部長 堀勝洋,「地域福祉の課題と展望」社会保障研究所調査部長 三上芙美子,「人口問題と社会保障」厚生省人口問題研究所人口政策研究部長 阿藤誠,「民間住宅サービスの動向」全国在宅介護事業協議会専務理事 吉田英二,「マンパワー確保対策の方向」厚生省社会・援護局施設人材課福祉人材確保対策室長 宇野裕,「保険学としての社会保険学」慶応義塾大学教授 庭田範秋,「フランスの社会保障」千葉大学教授 藤井良治

9. 8 第4回社会保障研究所国際交流セミナー (健保会館)

テーマ「アメリカからみた日本の年金制度の諸問題」講演 元米国社会保障庁副長官・チーフアクチュアリ R・J・マイヤーズ, 通訳: 日本団体生命保険株式会社顧問 村上清

9. 22 定例役員会 (第284回)

同 機関誌編集委員会 (健保会館)

9. 25 研究課題Ⅰ 現代家族と社会保障——出生と保育に関する理論・実証分析—— (第5回)

報告内容と報告者「出生力の経済理論」中央大学教授 大淵寛,「フランスにおける産育サポートシステム」桜美林大学専任講師 船橋恵子

9. 29 社会保障費調査研究委員会 (第3回)

報告内容と報告者「国民経済計算と社会保障費」経済企画庁経済研究所国民所得部国民支出課長 浜田浩児,「産業連関表の厚生省担当作業について」厚生省大臣官房統計情報部管理企画課課長補佐 安部泰史

同 研究課題Ⅲ 社会保障の新しい財源政策 (第5回)

報告内容と報告者「公的年金, 私的年金及び税制——21世紀の老後保障を考える」慶応義塾大学教授 古田精司

10. 1 研究課題Ⅱ 高齢化社会における介護ネットワークの構築 (第5回)

報告内容と報告者「在宅介護支援センターからみた地域ケアシステム」全国社会福祉協議会高年福

祉部長 和田敏明

10. 13 定例役員会 (第285回)

10. 16 研究課題Ⅰ 現代家族と社会保障——出生と保育に関する理論・実証分析—— (第6回)

報告内容と報告者「近代化家族政策のジレンマ」東京学芸大学助教授 山田昌弘

10. 19 研究課題Ⅱ 高齢化社会における介護ネットワークの構築 (第6回)

報告内容と報告者「地域の在宅福祉と医療との連携」京都大学教授 西村周三

10. 20 研究課題Ⅲ 社会保障の新しい財源政策 (第6回)

報告内容と報告者「国民健康保険制度・老人保健制度・退職者医療制度の財源問題」上智大学助教授 漆博雄

10. 29 海外出張報告会

報告内容と報告者「社会学と社会の再構成」社会保障研究所研究員 織田輝哉,「人口変動が公的財政に与える影響」社会保障研究所研究員 勝又幸子,「アメリカの医療費の現状と医療保険制度の改革の方向」社会保障研究所主任研究員 高木安雄

同 政策研究会 (第4回)

報告内容と報告者「国際化時代の社会保障研究」厚生省業務局麻薬対策企画官・前 OECD 日本政府代表部一等書記官 田坂治

10. 30 第31回公開研究報告会 (健保会館)

テーマ「年金給付額の水準をめぐって——ヴィネット調査の結果から——」

報告内容と報告者「ヴィネット方式の特徴と調査の概要」社会保障研究所研究員 織田輝哉,「職業・所得階層と年金意識」社会保障研究所研究員 織田輝哉,「適正な老齢年金額の年齢階層別分析」明治大学短期大学専任講師 塚原康博,「家族関係・住居の種類と年金意識」東京学芸大学専任講師 野呂芳明

11. 6 研究課題Ⅱ 高齢化社会における介護ネットワークの構築 (第7回)

報告内容と報告者「家族支援ネットワークの現状と課題」長野大学教授 萩原清子

11. 10 社会保障費調査研究委員会 (第4回)

報告内容と報告者「社会保障費の枠組みと国民経済計算や他の関連統計との位置づけ」聖学院大学

教授 城戸喜子

11.17 研究課題Ⅲ 社会保障の新しい財源政策(第7回)

報告内容と報告者「児童手当の財源政策」元厚生省児童手当課長 高橋三男

11.26 第5回社会保障トップセミナー(東京厚生年金会館)

講演「広がりゆく福祉の担い手たち」前厚生事務次官 坂本龍彦

パネルディスカッション「高齢者にはたらいてもらおう」ということ」司会 帝京大学教授 江見康一, パネリスト 信州大学教授 高梨 昌, お茶の水女子大学助教授 篠塚英子, 慶応義塾大学教授 清家 篤

11.27 研究課題Ⅰ 現代家族と社会保障——出生と保育に関する理論・実証分析——(第7回)

報告内容と報告者「パロー・ベッカーモデルにおける出生率と公共政策」東京都立大学助教授 金谷貞男

12. 3 研究課題Ⅱ 高齢化社会における介護ネットワークの構築(第8回)

報告内容と報告者「人的資源からみた地域ケアネットワーク」社会保障研究所調査部長 三上美美子, 「公的資源の活用と展望——世田谷区での実態調査を中心に——」社会保障研究所研究員 伊藤周平

12. 4 豪シドニー大学 マイケル・ファイン博士 来所

12. 8 イランイスラム共和国 厚生省付属社会保障機構 M・H・タリガト理事外8名来所

同 定例合同役員会(第286回)

12.15 研究課題Ⅲ 社会保障の新しい財源政策(第8回)

報告内容と報告者「社会保険と財政調整」千葉大学教授 藤井良治

12.18 研究課題Ⅰ 現代家族と社会保障——出生と保育に関する理論・実証分析——(第8回)

報告内容と報告者「保育の経済分析」社会保障研究所研究員 粟沢尚志

12.22 社会保障費調査研究委員会(第5回)

報告内容と報告者「デフレーターの研究」大正大学助教授 岸 功, 国立公衆衛生院社会保障室長 府川哲夫, 「公費負担の概念整理と費目分類上の

位置づけ」明治大学短期大学専任講師 塚原康博

平成 5. 1.12 研究課題Ⅲ 社会保障の新しい財源政策(第9回)

報告内容と報告者「介護の財源政策」社会保障研究所研究部長 堀 勝洋

1.19 定例役員会(第287回)

同 合同(専門・編集)委員会(健保会館)

1.21 研究課題Ⅱ 高齢化社会における介護ネットワークの構築(第9回)

報告内容と報告者「福祉公社の研究——横浜の事例」社会保障研究所研究員 武智秀之, 「福祉公社の現状と課題——福岡の事例」社会保障研究所研究員 高野和良

1.22 研究課題Ⅰ 現代家族と社会保障——出生と保育に関する理論・実証分析——(第9回)

報告内容と報告者「家族, 育児, 保育の動向と課題」日本総合愛育研究所調査研究企画部長 網野武博

2. 9 第27回社会保障研究所シンポジウム(健保会館)

テーマ「社会保障理論の再構築」

レポート 中央大学助教授 武川正吾, 一橋大学教授 田近栄治, 東京大学教授 兵藤 剣

コメント 慶応義塾大学教授 富永健一, 駿河台大学教授 地主重美

2.19 定例役員会(第288回)

2.23 社会保障費調査研究委員会(第6回)

「最終報告の概要について」

2.25 研究課題Ⅱ 高齢化社会における介護ネットワークの構築(第10回)

報告内容と報告者「家族介護の現状からみた支援システムの課題」国立リハビリテーション研究所研究員 安梅勅江

2.26 研究課題Ⅰ 現代家族と社会保障——出生と保育に関する理論・実証分析——(第10回)

報告内容と報告者「高齢化経済の計量分析」大阪経済大学助教授 藤川清史

3. 2 研究評価委員会

同 研究課題Ⅲ 社会保障の新しい財源政策(第10回)

報告内容と報告者「社会保障の新しい財源政策」駿河台大学教授 地主重美

3. 4 研究課題Ⅱ 高齢化社会における介護ネット

ワークの構築 (第11回)

報告内容と報告者「高齢化社会における介護ネットワークの構築——まとめ——」慶応義塾大学教授 丸尾直美

3.9 定例役員会 (第289回)

3.11 政策研究会 (第5回)

報告内容と報告者「平成5年度厚生省予算につい

て」厚生省大臣官房会計課企画官 角田博道

3.12 研究課題Ⅰ 現代家族と社会保障——出生と保育に関する理論・実証分析—— (第11回)

報告内容と報告者「ヴィネット調査のプレテスト結果」明治大学短期大学専任講師 塚原康博, 社会保障研究所研究員 織田輝哉

お知らせ

「季刊・社会保障研究」28巻4号の総目次におきまして項目の次の分が欠落しておりましたので追加させていただきますとともにお詫び申し上げます。

平成2年度～3年度研究プロジェクト報告

研究課題Ⅳ ヴィネット方式のアンケート調査による適正な年金給付額の推計

ヴィネット方式と年金の意識調査	宮 澤 健 一	I	31
ヴィネット方式の特徴と調査の概要	織 田 輝 哉	I	34
——適正な年金給付額の研究——			
適正な老齢年金額の年齢階層別分析	塚 原 康 博	I	45
家族関係・住居の種類と年金意識	野 呂 芳 明	I	55
社会階層と年金意識	織 田 輝 哉・武 智 秀 之	I	64
老後の経済的不安	曾 原 利 満	I	71

Report on Research Project for Fiscal 1990~1991: Project No. IV

"Estimation of Appropriate Pension Benefits Using Vignette Survey"

Introduction: Vignette Method for Pension Benefits in Japan	KENICHI MIYAZAWA	I	31
Characteristics of Vignette Method and Outline of the Survey	TERUYA ODA	I	34
An Analysis of Appropriate Pension Benefits by Age Group	YASUHIRO TSUKAHARA	I	45
Family Relation, Types of Home Ownership and Pension Consciousness	YOSHIKI EDWIN NORO	I	55
Social Stratification and Opinions about the Pension System	TERUYA ODA and HIDEYUKI TAKECHI	I	64
Fear of Loss of Income after Retirement	MITSUTOSHI SOHARA	I	71